

第2章

明和町の現状とまちづくりの課題

2-1. 都市計画マスタープラン改定のポイント

2-2. 明和町の現状と課題

2-1. 都市計画マスタープラン改定のポイント

(1) 社会情勢の変化への対応

① 人口減少・少子高齢化

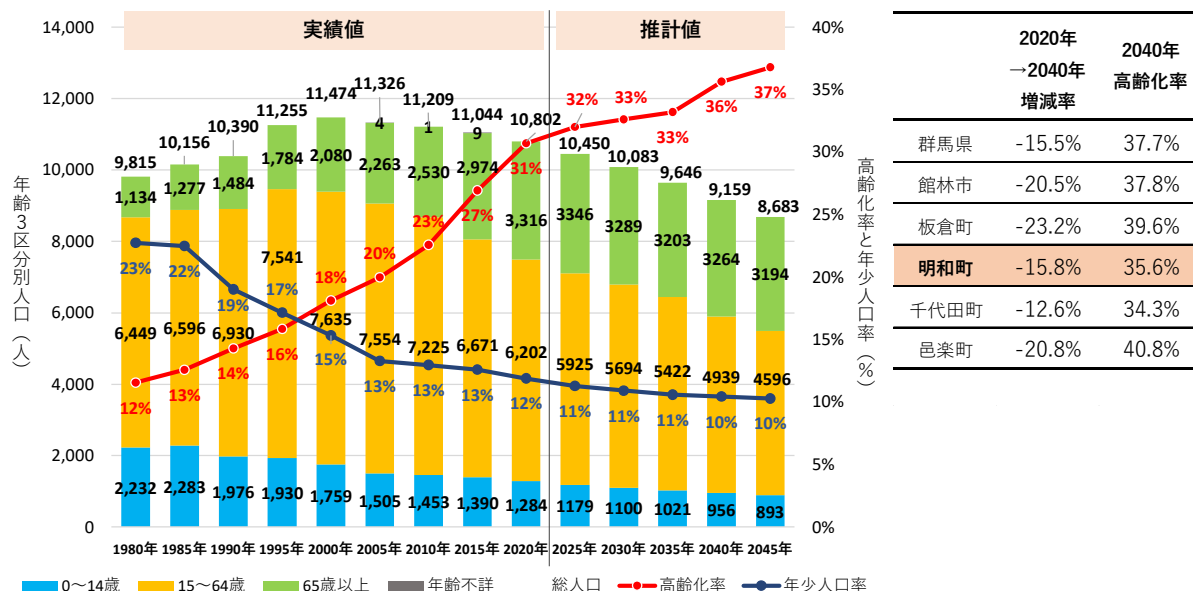
■ 現状

- ・ 総人口は 2020 年の 10,802 人から、2040 年には 9,159 人へと約 16%減少が見込まれます。
- ・ 高齢化率は、2020 年の 31%から、2040 年には 36%へ約 5 ポイント上昇といった高齢化の進行が見込まれます。
- ・ 年少人口率は、2020 年の 12%から、2040 年には 10%へ約 2 ポイント減少といった少子化の進行が見込まれます。

■ 改定のポイント

- ・ 人口減少や少子高齢化が進む中でも、防災・減災、防犯、環境美化や地域の見守りといった様々な活動など、地域の繋がりによる共助のまちづくりを進めるために、地域コミュニティの維持を図る必要があります。

【年齢3区分別人口及び高齢化率の推移】



出典

1980 年～1990 年：明和町立地適正化計画（2018 年）

1995 年～2020 年：国勢調査（2020 年）

2025 年～2045 年：国立社会保障・人口問題研究所（平成 30（2018）年推計）

② 人口減少に伴う未利用地の増加

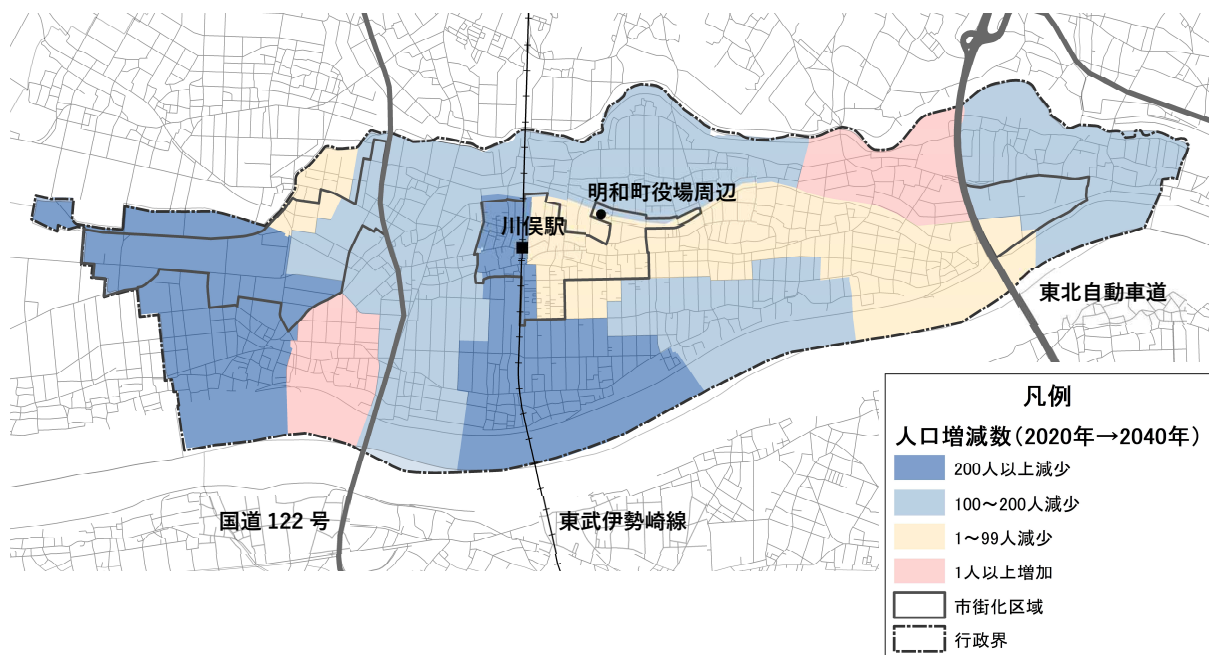
■ 現状

- ・ 人の居住のある地域についてみると、住居系市街化区域では 2.5ha、市街化調整区域では 3.7ha 増加しており、今後の人口減少に伴い、空家や空き地が発生し、未利用地の増加が懸念されます。
- ・ なお、町全体で未利用地が増加している主な要因は、工業団地整備の影響であり、今後企業誘致を進めていくことで未利用地は減少する予定です。

■ 改定のポイント

- ・ 地域コミュニティの維持を図るため、治安や景観の悪化を防ぐとともに、新たな移住者などの受入れや地域住民の交流の場などとして、未利用地などを有効活用する必要があります。

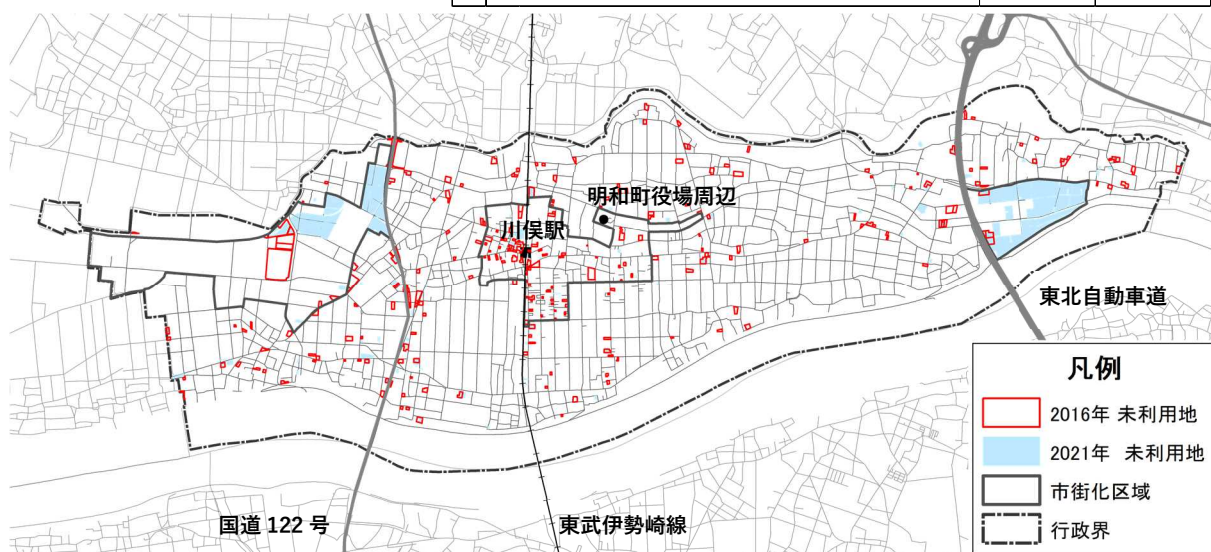
【地域別人口の推移（2020 年→2040 年）】



出典：国勢調査（2020 年）、国立社会保障・人口問題研究所（2040 年）

【未利用地の推移(2016年→2021年)】

	未利用地面積	
	2016年	2021年
町全域	34.3ha	73.4ha
市街化区域	14.5ha	45.6ha
工業専用地域、工業地域、準工業地域	10.7ha	43.7ha
住居系市街化区域	3.8ha	6.3ha
市街化調整区域	19.8ha	23.5ha



※未利用地：土地利用分類「その他空地」を対象に調査

出典：都市計画基礎調査（2016年、2021年）

(2) 住民ニーズへの対応

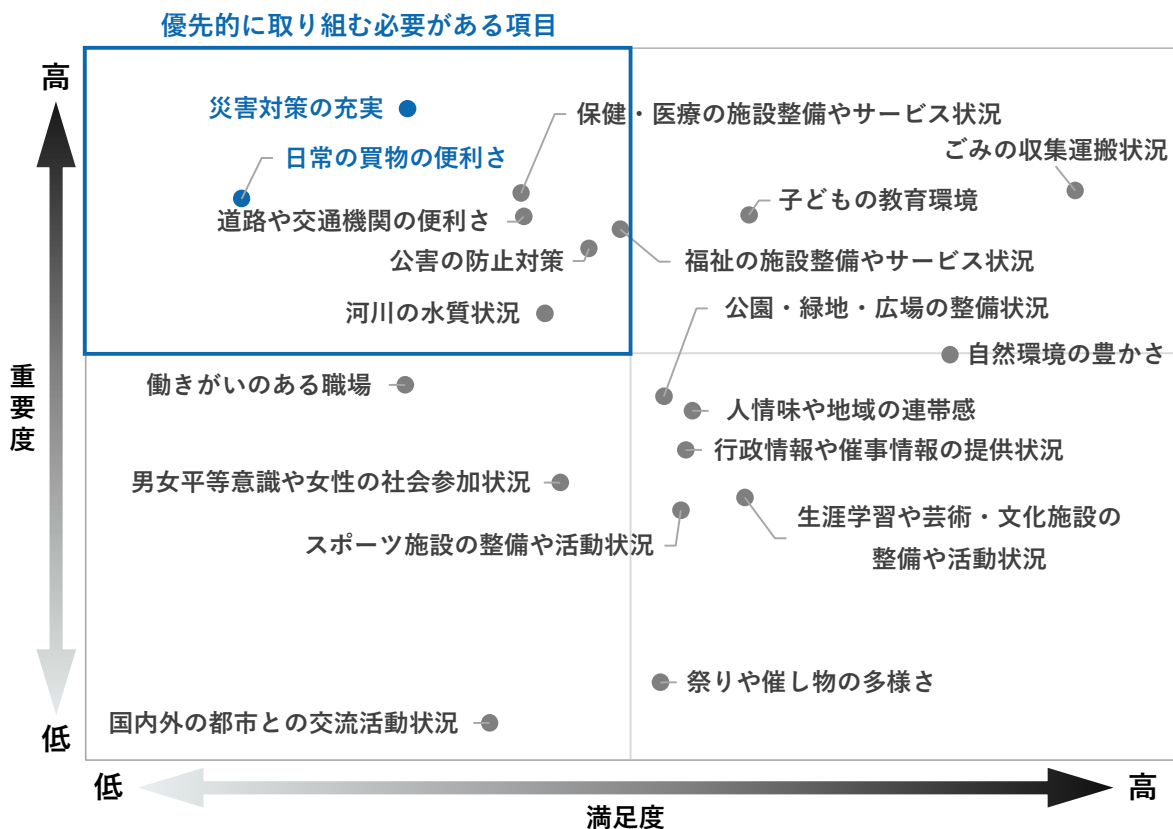
■ 現状

- ・ 都市計画マスタープラン改定に向けた住民アンケートを 2014 年と 2019 年に実施しました。
- ・ 将来の町の特色は、「安全で安心なまち」が求められており、順位の変動はありません。

■ 改定のポイント

- ・ 重要度が高く、満足度が低い「災害対策の充実」や「日常の買い物の便利さ」などの項目は、優先的に取り組む必要があります。特に災害対策は、「安全で安心なまち」に向けて、重点的に取り組む必要があります。

【施策に対する満足度と重要度】



出典：住民アンケート（2014 年、2019 年実施）

【将来の町の特色への思い】

2014 年	2019 年	将来の町の特色
1 位	1 位	犯罪が少なく、災害に強い安全で安心なまち
2 位	2 位	人にやさしい、健康・福祉を推進するまち
3 位	3 位	ごみや公害が少なく、環境を大切にする自然豊かなまち
4 位	4 位	子育て支援や教育が充実したまち
5 位	5 位	農業や工業などの産業を盛んにし、安定した職場があるまち
6 位	6 位	道路、下水、公園等が計画的に整備されたまち
7 位	7 位	行政改革の推進と財政の健全なまち

出典：住民アンケート（2014 年、2019 年実施）

(3) 上位・関連計画の改定

■ 現状

◆上位計画

- ・ ①「東毛広域都市計画圏都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(2020年12月、群馬県)」が改定され、秩序あるまちづくりに向け、土地利用や交通に関する方向性が位置付けられました。
- ・ 「明和町国土強靱化地域計画(2021年8月)」において、地域の強靱化に向けて、起きてはならない最悪の事態(リスクシナリオ)を回避するための対応方策を位置付けました。

◆関連計画

- ・ ②「明和町立地適正化計画(2018年6月)」を策定し、川俣駅周辺の拠点に対し、都市機能や居住誘導の方向性を位置付けました。

■ 改定のポイント

- ・ 上位・関連計画の目標像や方針などを踏まえ、新たなまちづくりの方向性を示すことが必要です。
- ・ 都市計画マスタープランの分野別方針(土地利用、都市施設)において、立地適正化計画と整合を図ることを検討します。

① 東毛広域都市計画圏都市計画区域の整備、開発及び保全の方針

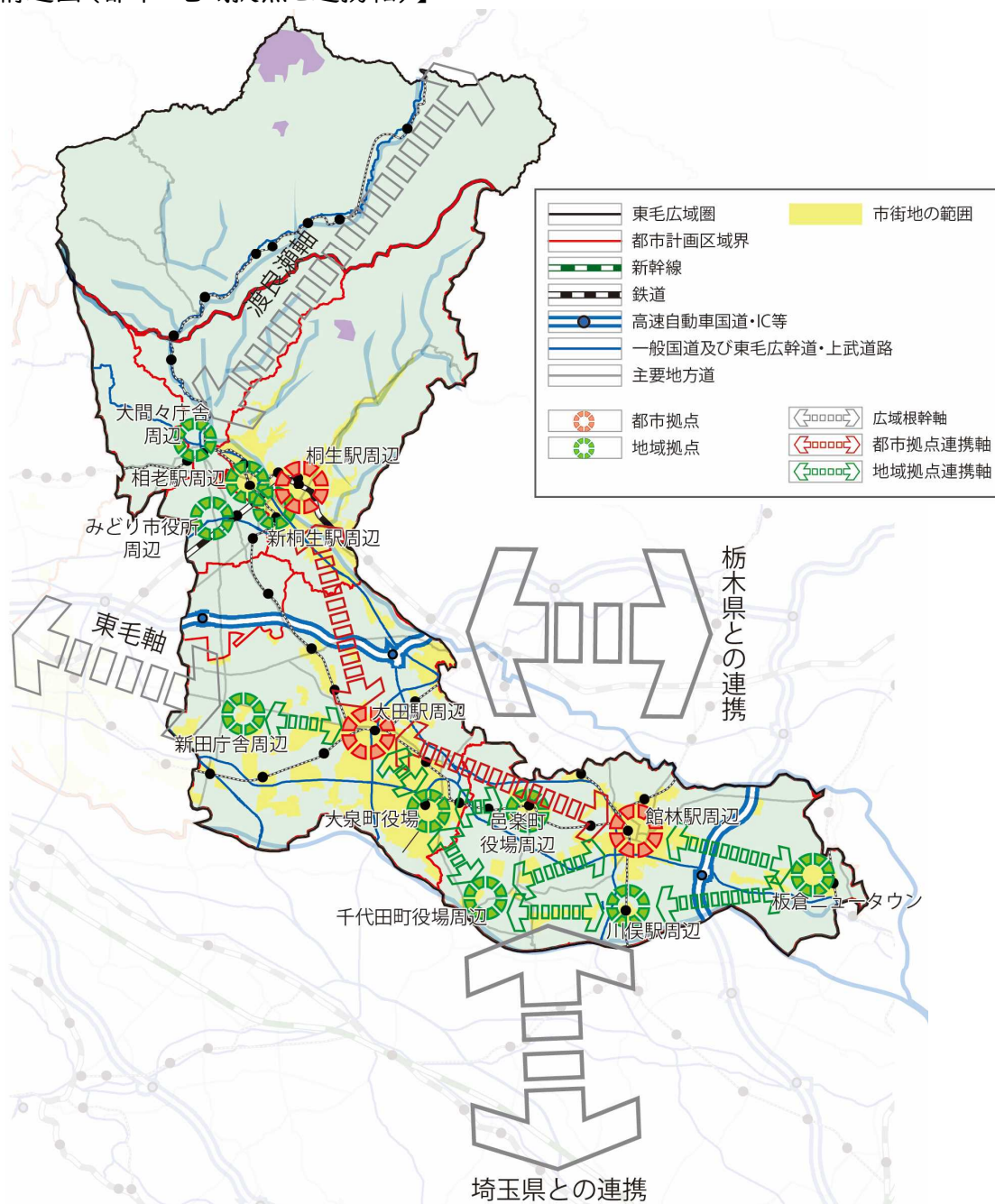
- 川俣駅周辺が地域拠点に位置付けられています。

◆明和町川俣駅周辺の役割

拠点が担う 機能・役割	主に周辺地域を対象として、日常的な商業・業務機能等の都市的サービスを提供するほか、居住機能の充実を図る
連携・補完する 機能・役割	主に館林駅周辺の都市拠点との連携により、行政・商業・業務・医療機能を補完する

- 板倉ニュータウン、千代田町役場周辺とそれぞれ地域拠点連携軸で結ばれています。

【都市構造図（都市・地域拠点と連携軸）】



出典：東毛広域都市計画圏都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（2020年）

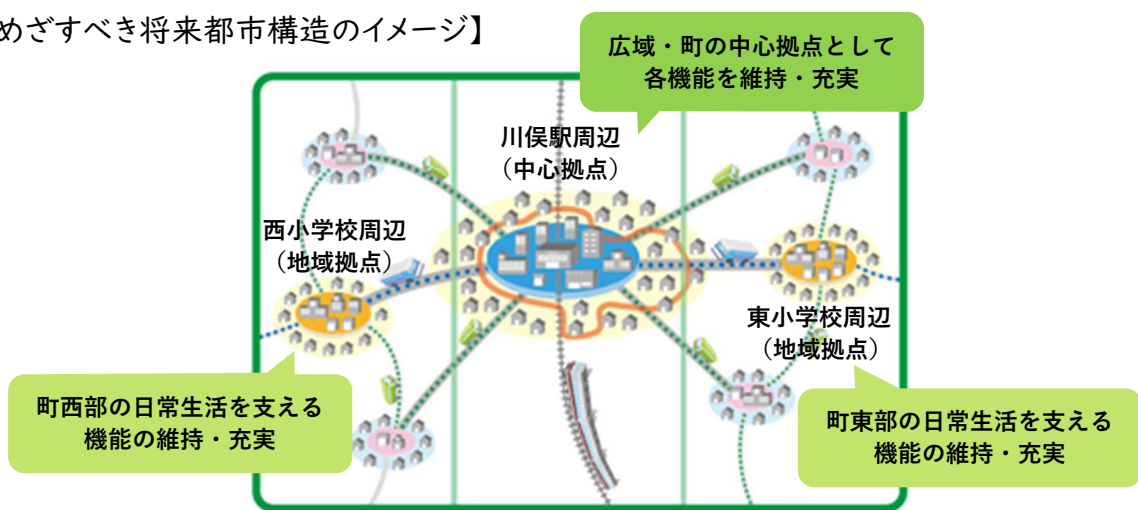
② 明和町立地適正化計画

- ・ 川俣駅周辺が中心拠点、東小学校周辺と西小学校周辺が地域拠点に位置付けられています。

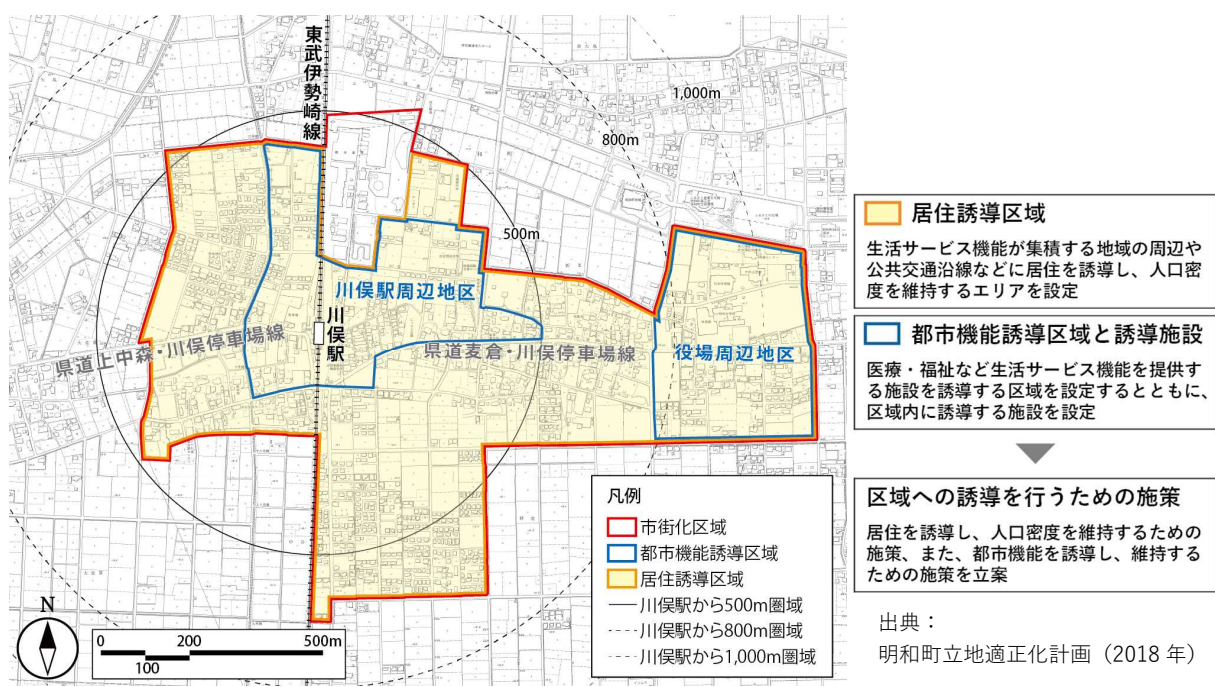
◆拠点の位置付け

中心拠点	館林都市圏または町の中核として、都市圏全体又は各地域への都市サービスを提供するために必要な機能を確保・拡充・維持する拠点
地域拠点	地域において日常的に必要な生活サービス機能や、既に他地域から利用されている機能を確保・維持する拠点

【めざすべき将来都市構造のイメージ】



【都市機能誘導区域及び居住誘導区域】



(4) 事業の動向・見通し

■ 現状

- ・ ①川俣駅周辺地区第2期整備事業が現在進行中です。
- ・ ②明和町ふれあいセンターが建設されました。

■ 改定のポイント

- ・ 現行都市計画マスタープランに対する事業の進捗状況や今後の事業の見通しなども踏まえた計画とすることが必要です。

① 川俣駅周辺地区第2期整備事業

- ・ 2016年に橋上駅舎と東西を結ぶ自由通路が完成し、鉄道による東西市街地の分断が解消されました。併せて、駅前広場や駅前プラザなども整備されました。
- ・ 東口は医療・保健センター複合施設「明和メディカルセンタービル」が2021年10月に完成しました。

◆東口：医療・保健センター複合施設「明和メディカルセンタービル」



A 棟



B 棟

② 明和町ふれあいセンター

- ・ 乳幼児から高齢者まで地域住民が世代を超えてふれあえる場所をコンセプトに建設しました。
- ・ 地域住民支援、子ども・子育て支援、高齢者支援の3つの柱を掲げ、地域の拠点を目指した施設です。
- ・ 地域の健康づくりや介護予防も担います。

◆ふれあいセンタースズカケ



2017 年 3 月完成
敷地面積：約 2,000 ㎡
建築面積：約 810 ㎡
延床面積：約 710 ㎡
構造：木造平屋建
備考：東小学校に隣接

◆ふれあいセンターポプラ



2018 年 4 月完成
敷地面積：約 2,370 ㎡
建築面積：約 930 ㎡
延床面積：約 990 ㎡
構造：木造一部二階建
備考：西小学校に隣接

(5) 広域的な連携・協働

■ 現状

- ・「館林都市圏 広域立地適正化に関する基本方針」が策定され、広域連携の強化や機能分担による効率的な都市運営に向けた方針が位置付けられました。
- 明和町の川俣駅周辺は、まちの中心として生活サービスを担う中心拠点に位置付けられています。
- また、公共交通の乗り継ぎ可能な交通結節点として、公共交通の利便性を向上させ、公共交通利用の促進を図る必要があります。

■ 改定のポイント

- ・ 今後は都市サービスの維持・拡充を行うため、町単独に加えて、公共交通や施設の運営維持などについて、周辺市町との連携・協働が必要です。

【館林都市圏 広域立地適正化に関する基本方針(2017年5月)】

◆都市圏の基本目標

館林都市圏として広域連携を強化した快適で活力あふれるコンパクトなまちづくり

- 基本方針 1 居住及び都市機能の集積によるコンパクトで快適なまちづくり
基本方針 2 各市町のポテンシャルを最大限に活かせる効果的・効率的な都市機能の配置・誘導
基本方針 3 誰もが移動しやすい公共交通ネットワークの形成

◆都市圏における都市機能誘導区域

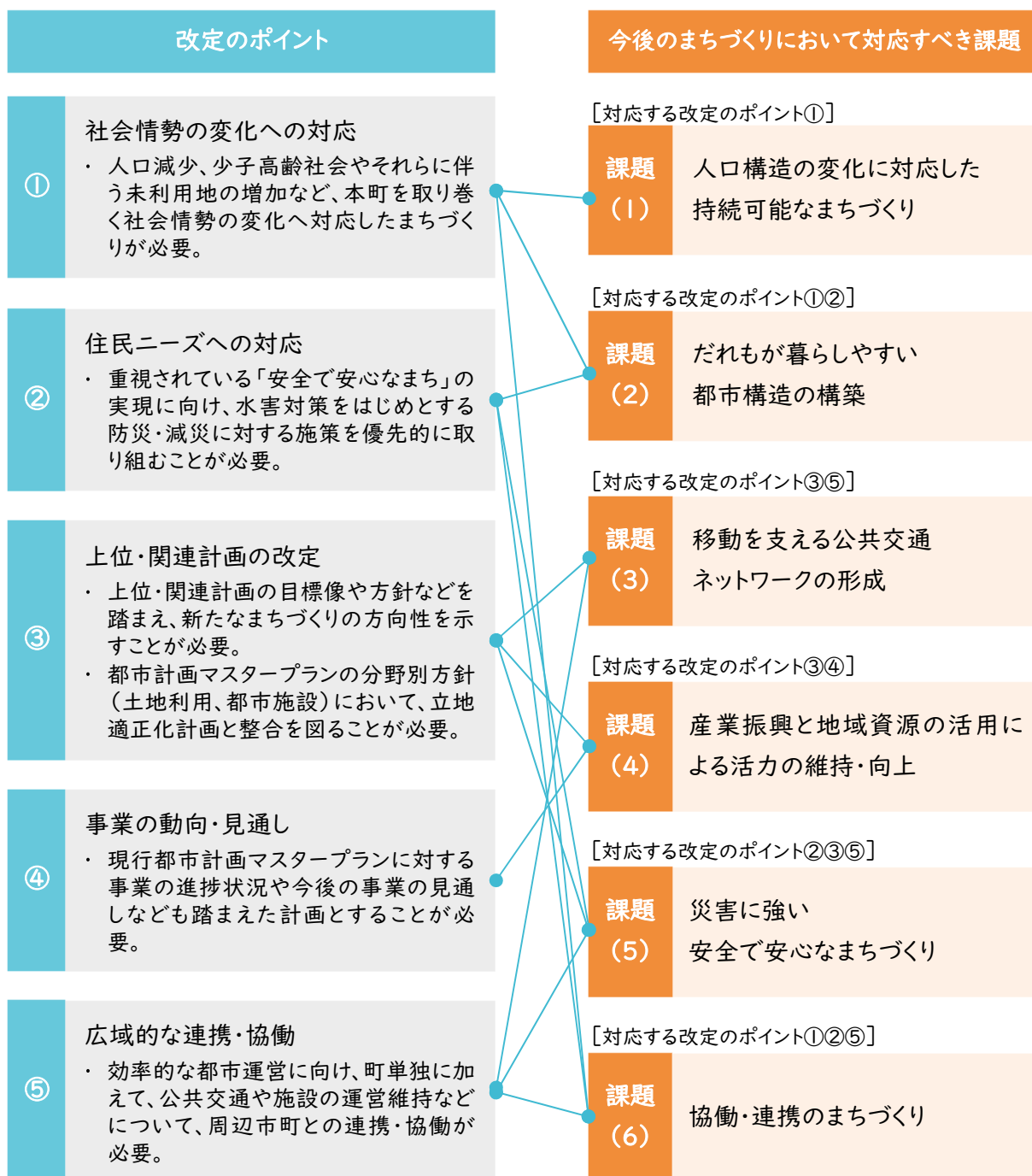


出典：館林都市圏 広域立地適正化に関する基本方針（2017 年）

2-2. 明和町の現状と課題

都市計画マスタープラン改定のポイントと今後のまちづくりにおいて対応すべき課題の関係は、以下の通りです。

【改定のポイントと今後のまちづくりにおいて対応すべき課題の関係】



(1) 人口構造の変化に対応した持続可能なまちづくり

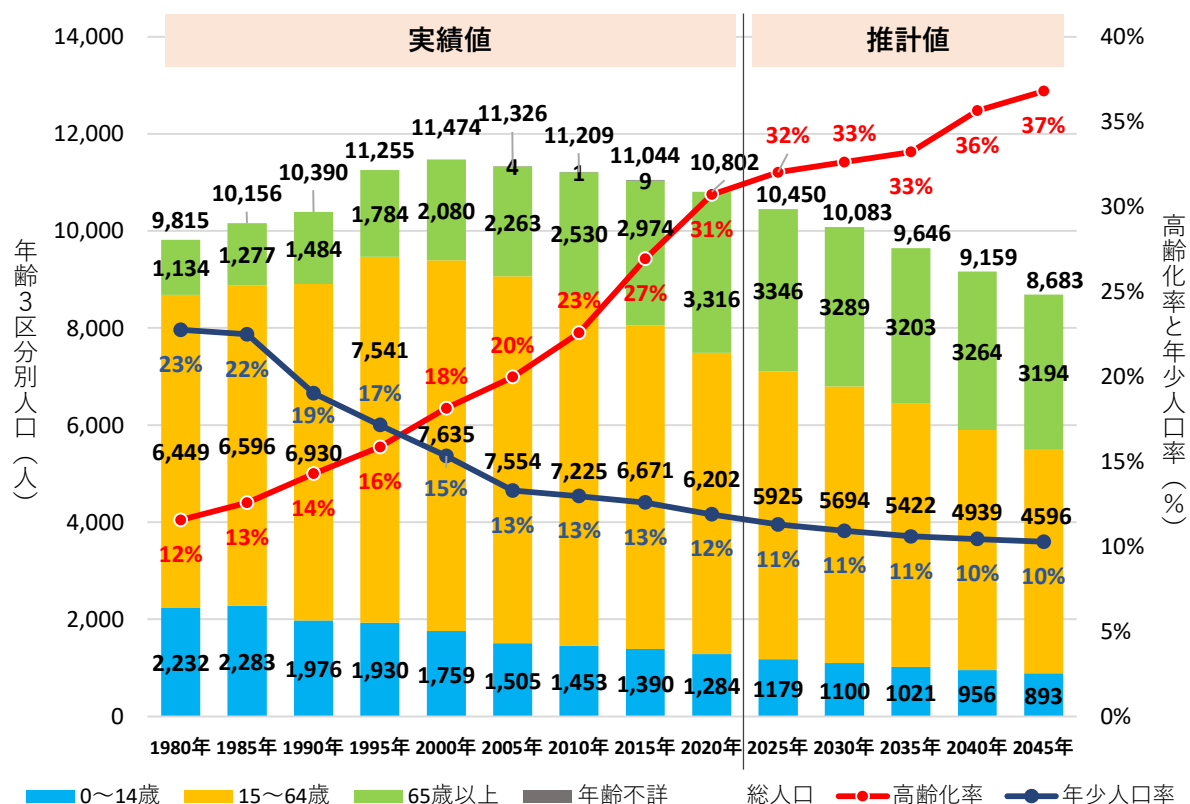
■ 現状

- ・ 総人口は2015年から2045年にかけて約21%減少が見込まれます。高齢化率は約10ポイント上昇、年少人口率は約3ポイント低下、少子高齢化の進行が見込まれます。
- ・ 市街地や集落地において空家や空き地などの未利用地が増加しています。

■ 課題

- ・ 人口構造の変化に対応し、市街地や集落地における地域コミュニティが維持された持続可能なまちの形成が必要です。
- ・ 急増する高齢者への対応など、だれもが暮らしやすい生活サービスの維持・拡充が必要です。

【年齢3区分別人口及び高齢化率の推移】※再掲



出典

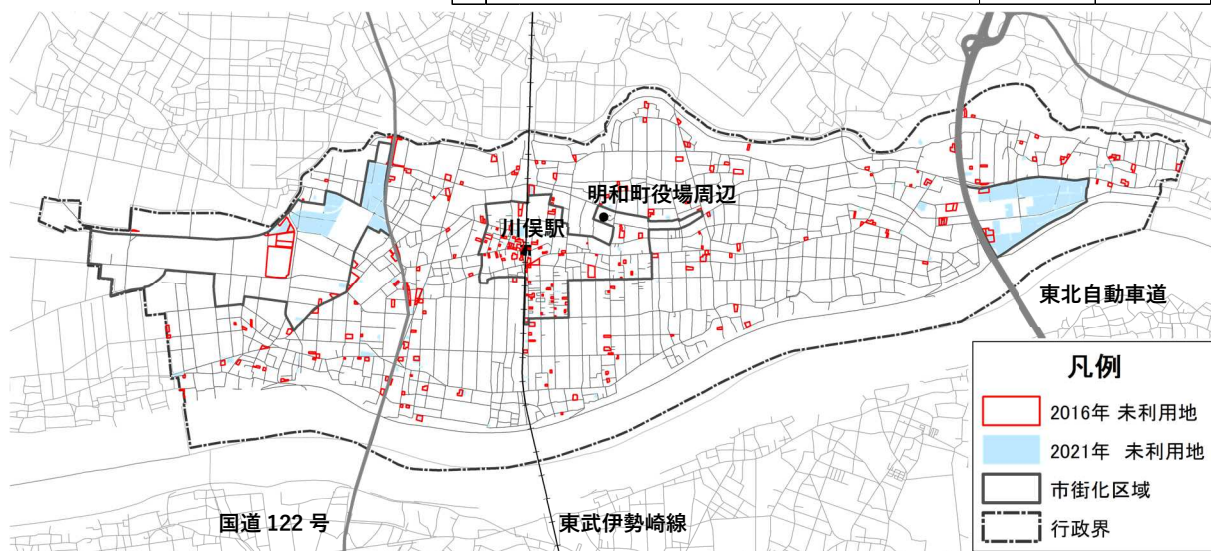
1980年～1990年：明和町立地適正化計画（2018年）

1995年～2020年：国勢調査（2020年）

2025年～2045年：国立社会保障・人口問題研究所（平成30（2018）年推計）

【未利用地の推移（2016年→2021年）】※再掲

	未利用地面積	
	2016年	2021年
町全域	34.3ha	73.4ha
市街化区域	14.5ha	45.6ha
工業専用地域、工業地域、準工業地域	10.7ha	43.7ha
住居系市街化区域	3.8ha	6.3ha
市街化調整区域	19.8ha	23.5ha



※未利用地：土地利用分類「その他空地」を対象に調査

出典：都市計画基礎調査（2016年、2021年）

(2) だれもが暮らしやすい都市構造の構築

■ 現状

- ・ 川俣駅周辺は、都市サービスを提供するために必要な機能を確保・拡充・維持する拠点として位置付けられています。
- ・ 川俣駅周辺は人口密度が高い一方で、都市機能（商業・福祉など）の立地がないなど、利便性は確保されていません。

■ 課題

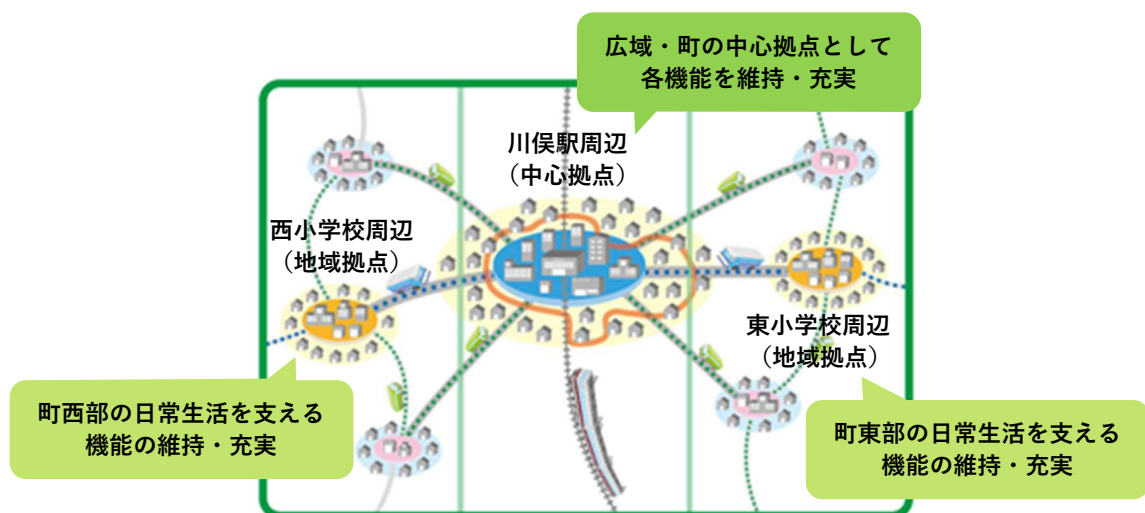
- ・ 川俣駅周辺に都市機能（商業・福祉など）を誘導し、町全体に都市サービスを提供できる拠点を形成するとともに、地域間ネットワークが形成された都市構造の構築が必要です。

【明和町立地適正化計画】※再掲

◆各拠点の位置付け

中心拠点	館林都市圏または町の中核として、都市圏全体又は各地域への都市サービスを提供するために必要な機能を確保・拡充・維持する拠点
地域拠点	地域において日常的に必要な生活サービス機能や、既に他地域から利用されている機能を確保・維持する拠点

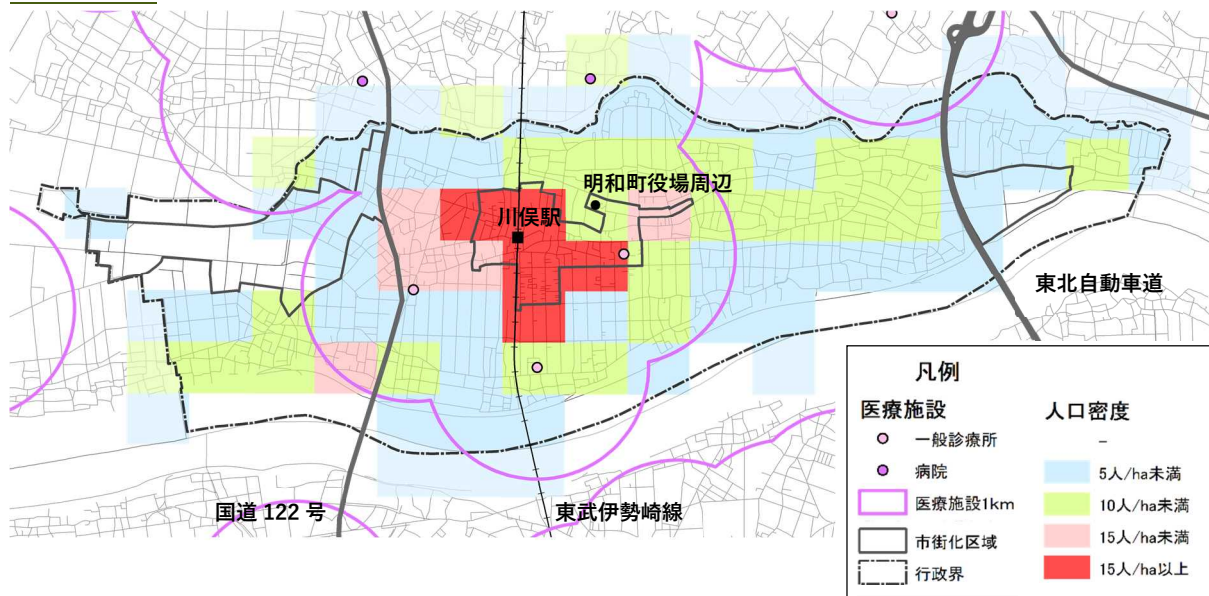
◆めざすべき将来都市構造のイメージ



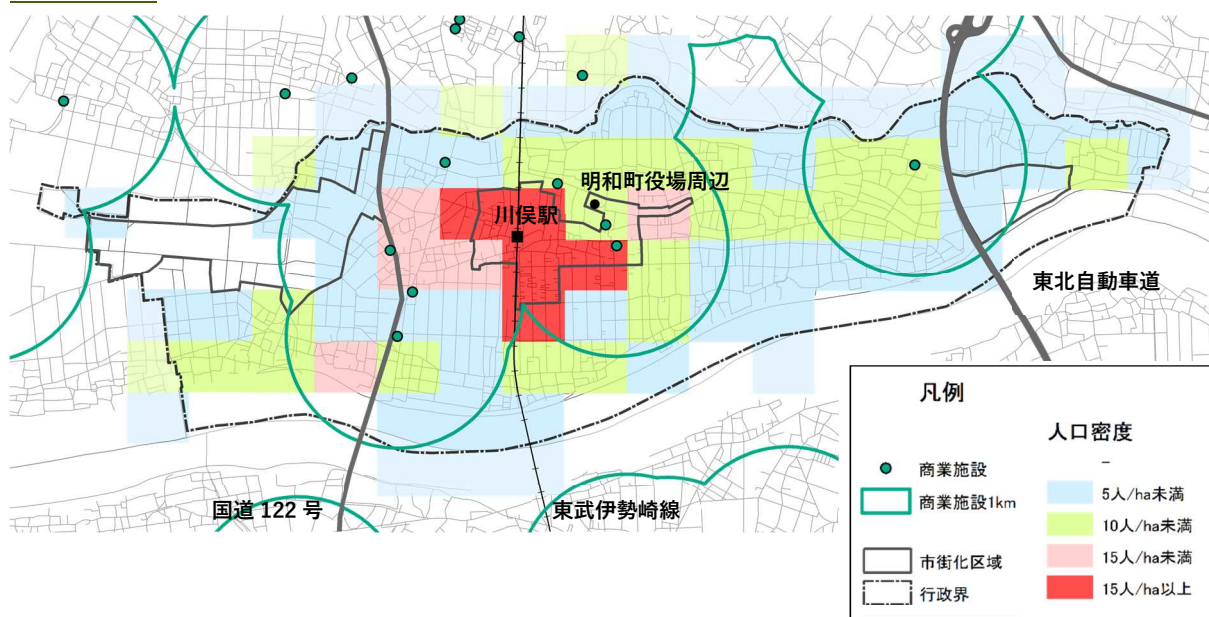
出典：明和町立地適正化計画（2018 年）

【都市機能と人口密度の状況】

◆医療施設



◆商業施設



出典：国勢調査（2020年）

(3) 移動を支える公共交通ネットワークの形成

■ 現状

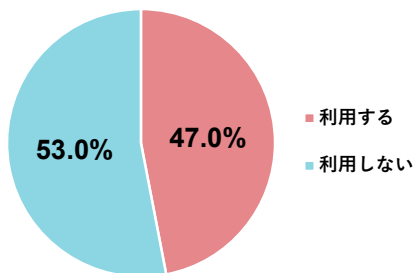
- ・ 館林都市圏を結ぶ路線バスが運行していますが、バス利用者は約1割に留まります。
- ・ 工業団地整備に伴い川俣駅利用者は増加しています。
- ・ 一方で、東部地区と川俣駅を結ぶ公共交通が整備されていません。
- ・ 乗り合い送迎サービス「チョイソコめいわ」を試験的に運行するなど、移動手段を確保するための取組を進めています。

■ 課題

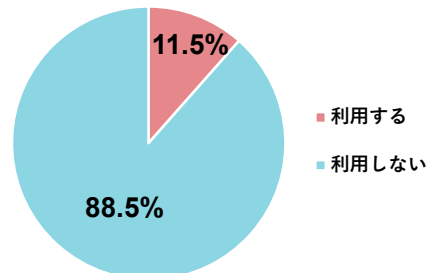
- ・ 利用者が増加している川俣駅周辺において、利用環境の充実など、交通結節点としての機能強化が必要です。
- ・ バス交通を維持するため、バスルートの見直しや利便性向上などの利用促進のための環境整備が必要です。

【公共交通の利用頻度】

◆ 鉄道



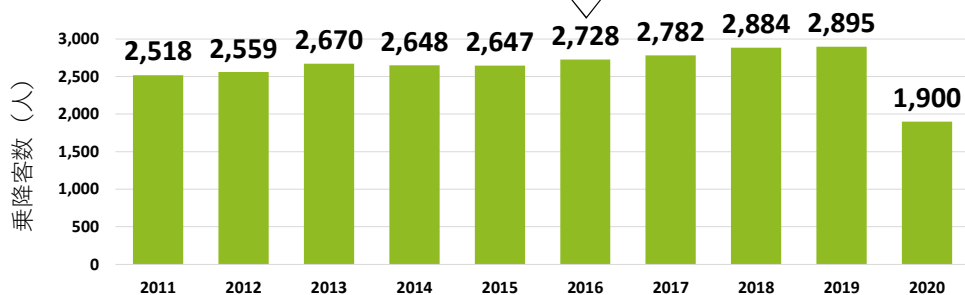
◆ バス



出典：群馬県交通まちづくり戦略（2018年）

【川俣駅の乗降客数（一日平均）】

- ・ 2016年、橋上駅舎と東西を結ぶ自由通路が完成
- ・ 2019年には2015年に比べ乗降客数は約1.1倍に増加
- ・ 2020年、新型コロナウイルス感染拡大の影響により減少したと考えられる



出典：国土数値情報（2011年～2020年）

【公共交通利便地域の状況】（鉄道及び路線バス）



		バス		
		バス停から300m圏域かつ 運行便数15回/日（往復）以上	バス停から300m圏域かつ 運行便数16回/日（往復）未満	バス停から 300m圏域以外
鉄道	鉄道駅から 1km圏域	公共交通利便地域		
	鉄道駅から 1km圏域外	公共交通 不便地域		
		公共交通 空白地域		

【デマンド型交通】

- ・ 町内に設置した 122 カ所の停留所から申込み状況に応じて最適ルートを通り、目的地の停留所まで乗り合いで向かうサービス

健康増進のための
**乗り合い
送迎サービス**

チョイソコまで、ごいっしょに
**チョイソコ
めいわ**

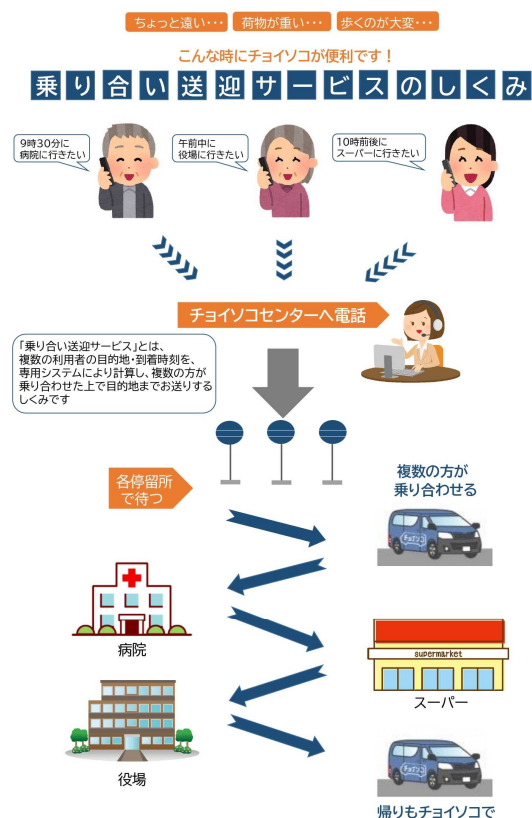
会員登録制
無料

乗り合いで
ご希望の場所へ
平日
8:30-16:30

電話で受付
電話受付
8:30-16:30

運賃
町内無料

群馬トヨタ自動車 明和町 社会福祉法人 明和町社会福祉協議会



出典：社会福祉法人明和町社会福祉協議会

(4) 産業振興と地域資源の活用による活力の維持・向上

① 商業・工業の振興

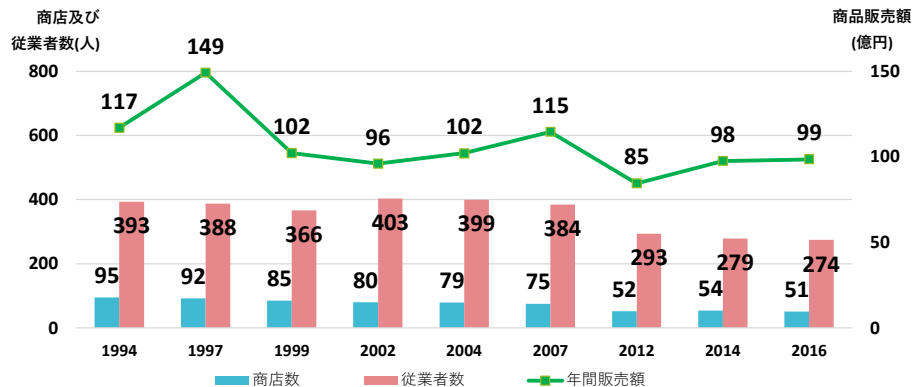
■ 現状

- ・ 近年、商業サービスは規模を維持しています。
- ・ 好調な製造業は、東部地区において新たな工業団地が計画されるなど、工業による地域振興が期待されます。
- ・ 西部地区において、県内最大級の工業団地と複合施設が形成されています。
- ・ 工業団地が計画されている東部地区から中部地区へのアクセス道路が限られています。

■ 課題

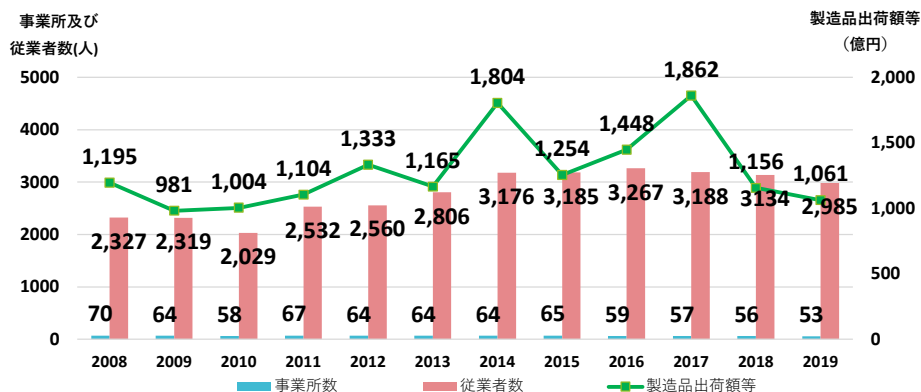
- ・ 工業の操業環境の充実が必要です。
- ・ 町内で従業する人々が暮らしやすい環境づくりとして、居住環境や都市サービスの維持・向上を図り、定住に繋げることが必要です。
- ・ 東部地区から中部地区へのアクセス道路の充実など、物流を支える広域的な道路ネットワークの形成が必要です。

【商店数及び従業者数、商業販売額の推移】



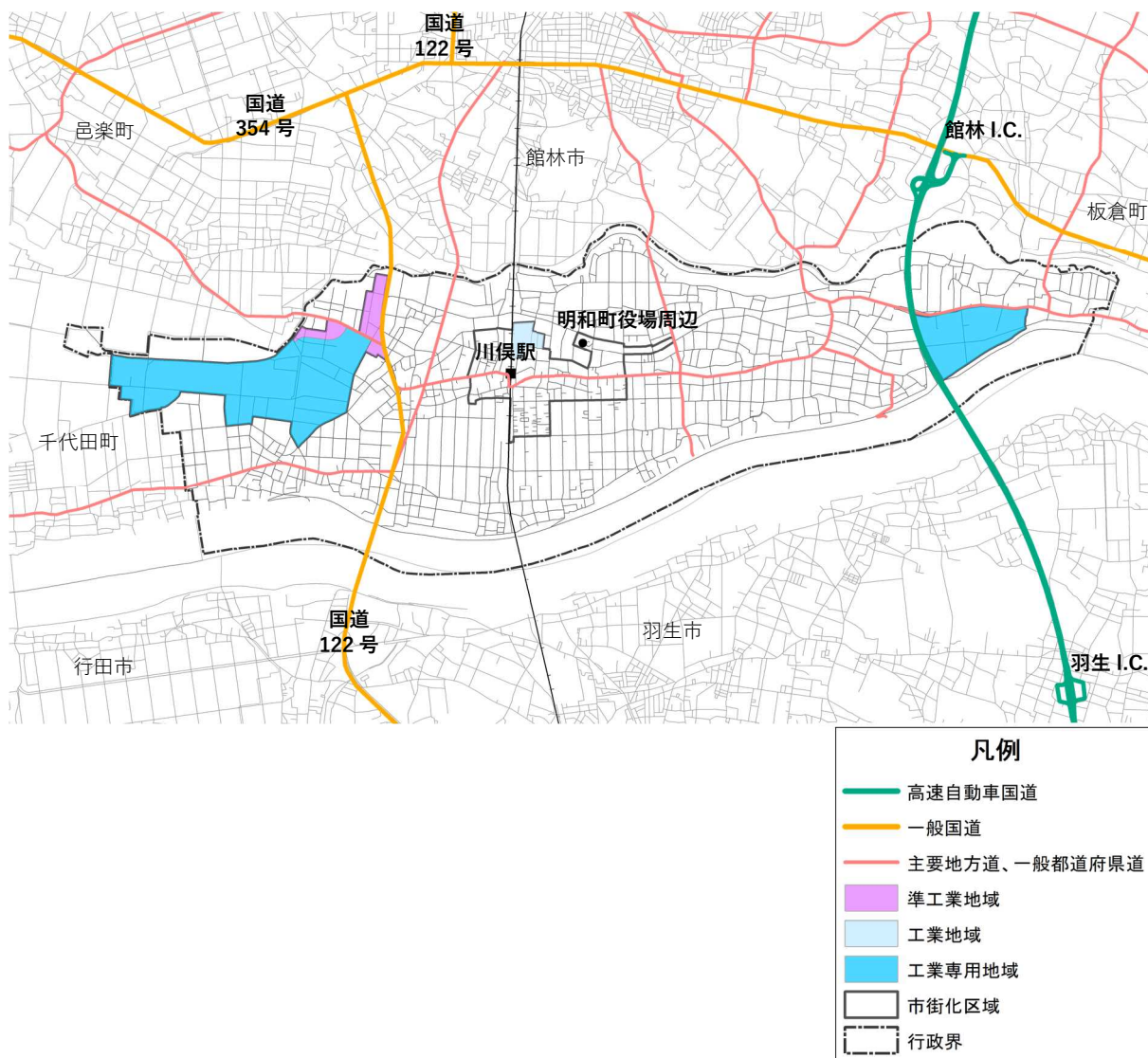
出典：商業統計調査（1994年～2016年）

【事業所数及び従業員数、製造品出荷額等の推移】



出典：工業統計調査（2008年～2019年）

【工業団地と広域道路網の関係】



出典：全国道路地図 2018 デジタル（2018 年）

② 地域資源の保全と活用

■ 現状

- ・ 利根川と谷田川は、町のシンボリックな存在であり、レクリエーションなどに活用できる自然豊かな水辺空間が広がっています。
- ・ シクラメンは全国有数の産地であり、シクラメンまつり（直売会）も実施されています。

■ 課題

- ・ 河川敷など、豊かな自然を有効的に活用し、地域の魅力の向上が必要です。
- ・ 地域産業の積極的な PR 活動や、貴重な地域資源の保全に取り組むことが必要です。

【主な地域資源】

◆自然豊かな水辺空間



利根川



谷田川



利根川総合運動場

◆主な特産品



シクラメン



梨



梨の雫

◆主なまちのみどころ



桜並木路



ふるさとの広場



シクラメンロード

◆歴史・文化遺産



川俣宿



ささら舞



明和まつり

(5) 災害に強い安全で安心なまちづくり

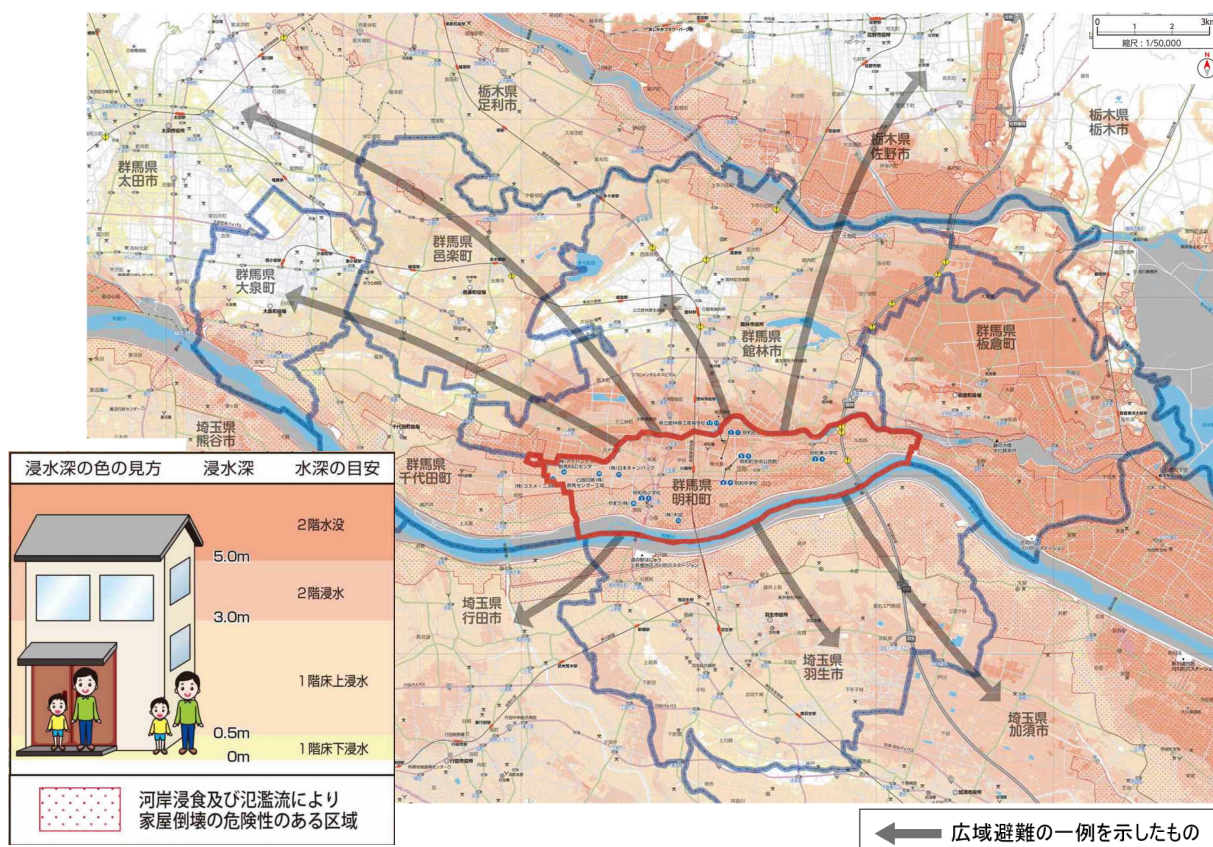
■ 現状

- ・ 水災害により、ほぼ町内全域が浸水深3m以上となると明和町総合防災マップで示されていることから、発災前の広域避難を推進しています。
- ・ 大規模災害時には、町単独では対応できない場合も想定されるため、自治体や民間事業者と災害時応援協定の締結など、広域的な防災体制の形成に取り組んでいます。
災害時における館林市邑楽郡隣接一市五町相互応援協定
(館林市・板倉町・千代田町・大泉町・邑楽町、2013年締結) など

■ 課題

- ・ 広域的な防災・減災体制の形成に取り組んでいますが、更なる住民の防災・減災意識を高め、自発的な取組の支援など、ソフト・ハード両面から対策を進め、防災・減災機能の強化を図ることが必要です。

【広域洪水ハザードマップ】



※最大規模被害想定：この図は利根川、渡良瀬川、群馬県が管理する一級河川で「想定し得る最大規模の降雨（参考：72時間の総雨量が利根川八斗島上流で491mm）」により氾濫した場合をシミュレーションしたものです。

出典：明和町総合防災マップ（2019年）

(6) 協働・連携のまちづくり

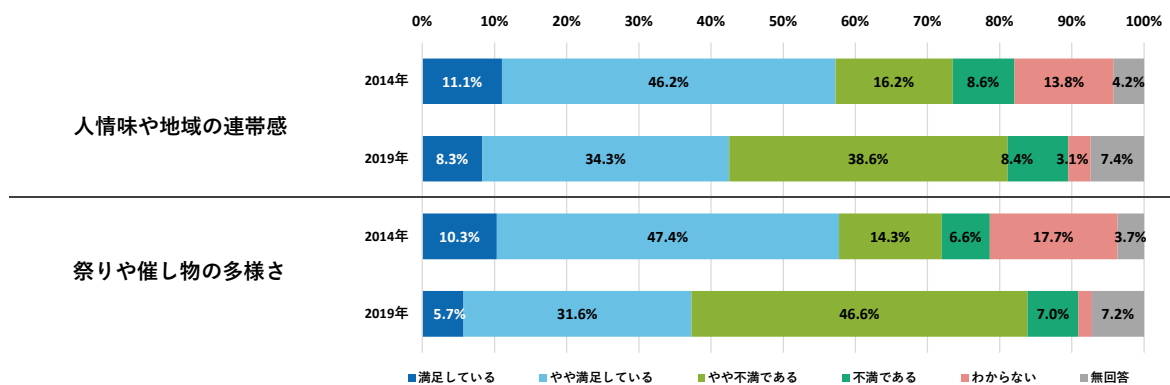
■ 現状

- ・ 住民アンケートにおいて、「人情味や地域の連帯感」「祭りや催し物の多様さ」に対する満足度は低下しています。
- ・ 館林都市圏において、広域公共路線バス 9 路線と厚生病院シャトル線が運行しており、一定の移動手段が確保されています。

■ 課題

- ・ 人口減少下にあっても、地域コミュニティを維持・形成に資するまちづくりが必要です。
- ・ 館林都市圏において、公共交通同様、施設も相互利用などを促し、広域的な連携の強化が必要です。

【住民ニーズ：地域コミュニティに関する満足度の変化】※抜粋



出典：住民アンケート（2014 年、2019 年実施）

【館林都市圏：路線現況図】



出典：館林市ホームページ ※2022 年 6 月現在